

49

治平元年  
月  
日  
英日盟協約改訂始末

P.V.M. 6 751

2-0009

0246

OFFICES OF THE JAPANESE EMBASSY,  
1, LYGON PLACE,  
EBURY STREET, LONDON, SW.

420263

松本記録

昭和二十五年十月  
遺族より提供を受く

明治四十四年  
七月  
日英同盟協約改訂始末

P.V.M. 6 752

2-0009

0247

第一、英露兩國の取下一ノ關係ニ極ミ日露ノ必要  
 ヲ感スル一昔日ノ如ク切實ナラサル一  
 第二、英人ノ胸膈ニ伏在スル人種ニ並宗教上  
 ノ反感  
 第三、日本商工業ノ發展ヲ恐ル一  
 第四、日本日露ノ利益ニノ使用シ  
 却テ其精神ニ及シテ清子ノ領土保全ヲ害  
 シ、滿洲ノ利権ヲ壟斷シ門戶閉鎖ヲ行ハ  
 ントスルモノナリトノ懸念  
 第五、清子ヲ買収シ口舌是醒ニ口情ノ念  
 増進スルト共ニ日本ニ對シテ反感ノ念ヲ起シ来リ  
 タル一  
 第六、英露ノ本質トシテ尙ホ場合ニ絶對ニ戦争

P.V.M. 6 754

松本記録  
昭和二年十月  
遺族より提供を受く

去ル明治廿八年八月日英日盟改可也其時ハ英露  
 氏ノ我邦ニ對スル感情頗ル熱誠ヲ托メタルモ此好  
 感情ハ爾來年ト共ニ漸ク冷却ニ移キ殊ニ近  
 年ニ及セテハ此傾向最著數、動モスル日本施  
 設、凡俗等ニ要馬ヲ運ツル方都テ一般ノ人氣  
 ニ投スルカ如キ情勢ヲ見ルニ至レリ  
 抑モ斯ノ如ク人氣ノ衰遷ヲ改メル所以ニ結  
 局在ノ清子ニ揚着スルモノ如シ  
 第一、日露戰役中ニヨリ極端ニ pro-Japanese  
 ナリト思フ者ノ時代の反働

緒言

P.V.M. 6 753

第十、最近幸徳如刑る件、等々、我邦ヲ以テ  
 野蠻ナル專制ナル誤認ス之レト曰盻スルハ其カ  
 ノ耻辱ナリト切ニ憤慨スルモノヲ生セシメ、  
 以上ノ諸原因ハ素ヨリ互ニお錯綜シ、其結果或ハ  
 公然ト曰英口隘非繼續テ唱フン者ヲサシ、彼  
 ノ海軍擴張論者等ノ内ニ曰盻条約ハ此ノ一  
 ノ五年限リヲ減スルモノト前提ニテハ防  
 ノ備不備ヲ論スルモスラ鮮カラサルニ至レリ、殊ニ全  
 回愈改行曰盻条約ヲ表セラハ、ヤンデーリ、ニエ  
 ノ如キハ若シ今ヨリ一十年以前ニ曰盻條約ニテ  
 稱ナレヌルモアリタランニハ世人ニ之ヲ一矢ニ付シタルナラン  
 ト公言セリ、彼レ固ヨリ平素ニ抗テモ往々極端  
 ナル議論ヲ為シ公平ナル傳テ海ヲ代表スルモノニア

也ナル考たニ日本ノ糾紛提議セハ、終ニ日本衝  
 突ノ渦中ニ投セラレニ至ルヲ恐ルハ、殊ニ加那大  
 其他ノ住民地ニ北テハ此感ハ情最露骨ニ表  
 白セラレ、サナキガニ日英曰盻ヲ快シトセサレ、之ハ  
 狂民人士ニ益シ曰盻増票ノ会ヲ起サレタリ、  
 第八、利害關係存者ノ自ラ爲スル所アル排日  
 運動、就中「ホーリントン」等、僥倖、友、タイ、リス  
 北京、通、作、員、モリソン、ノ如キハ我ニ対スル反感  
 ヲ鼓吹スルニ最興テカアルモノナリ、  
 第九、日露戦争後、時々深シク日本ニ同情ヲ  
 表シ居ル有力ナル猶太人、ノ近時日露戦争提  
 議ニ不快ノ感ヲ懷シモノヲ生シタルコト、  
 第十、我新関税同盟ニ対シ、傳テ海ノ激昂

2-0009

0249

合至リシガ一面口盟改訂済ハ英米議合レ即華國  
係ニテ一時ハ明年二三月ノ交ニアラサレ結了ヲスル  
能ハサレハキ情狀タリシモ英米仲裁条約高條進  
力意外ニ迅速トナリタレタメ口盟条約ノ方モ六  
月半以來急轉直下ノ勢ヲ以テ進捗シ、遂ニ  
七月十三日ヲ以テ茲ニ調印ヲ了スルニ至リ、  
而シテ新改訂協約ハ英米仲裁条約ノ障礙ヲ  
除キ、且英米民ノ危惧ヲ消滅セシメタル上英米ヨ  
リ階級壹派ノ別セテ英米輿野ノ歡迎スル妙ト  
ナリ、又恰モ閣僚中ナリシニ帝女會様ニ於テ英  
米民地代表者モ十分口盟ノ効能ヲ知ルノ  
機會ヲ得テ喜口盟協約ニ對シテハ從來ト異テ滿  
腔ノ熱多クヲ表シ、尚又、由來統一党ノ仕事ノ如キ

P.V.M. 6, 758

ラガハモ亦口ヲ英米民ノ日本並ニ日英口盟ニ對シテ感  
情ノ十分満足スベキモノニアラザリシ一節トシテ又ルヲ得  
ベキナリ  
唯此節ニ於テモ英米局者就中、現外務大臣ノ如ク  
化ハ依然トシテ口盟ヲ重シシカ建議ヲ希生シ居  
タルハ時々加藤大使ト曰大抵トテ談話ニ於テ明ニ之ヲ  
宥規ヲ得ベシ而シテ其勳擢ハ主トシテ海軍問題  
ヲ中ムトスル 對独關係ニアルモ明カナルが端ナリモ昨明  
治四十二年九月下旬口大下、英米仲裁条約  
ニ關シテ内務、口盟改訂後ヲ持テ好機ヲ得、  
其交渉内密ニ進メシツアリシ節ニ、サシモ終斜  
ヲ極メタル國稅問題モ幸シテ円満ニ解決ヲ告ゲ  
タメニ英米民ノ我邦ニ對シテ感情モ亦稍ク良好ナ

P.V.M. 6, 757

2-0009

0258

OFFICES OF THE JAPANESE EMBASSY,  
1, LYGON PLACE,  
EBURY STREET, LONDON, S.W.

觀アリシハ本口盟カ此ハ自由党政府ノ手ニシテ  
改訂セラレ而モ固ク滿場一致ノ賛同ヲ得タルカ  
如キ歟モ其ハ喜フ(キ既而ナリトス  
之ガ人氣之變遷ハ次ノ大ニ將來ノ事ナラモ  
た一キ可極故特ニ茲ニ之ヲ記ス  
本館ハ今口盟改訂ノ始末ヲ特ニ特殊の  
叙ニテ聊カ改訂後ノ起因、交渉ノ曲折等  
ヲ明ニシ、以テ後日参照ノ便ニ資センヲ期ス  
モノ、其ノヨリ茲ニ本件始末ノ大綱ヲ述フニ止  
タルニ依リ、詳細ハ所々ニ引用ニテ電報通信  
等ニ就キテ之ヲ研ムルヲ要ス、今左ニ本館ノ目  
次トスル件ノ五ノ日誌トテ掲ゲ本件経過  
ノ大體ヲ知ルノ用ニ供ス、

明治三十四年八月七日

F.V.M. 6 759

2-0009

0253

第二章 談判ノ進行	井
第一節 改訂協約案ノ成立	井
(一) 帝國政府改訂案ノ内容ト加藤大使ノ意見	井
具申	
(二) 滿洲ノ規定挿入ニ付加藤大使ノ意見	井
具申	
(三) 英國政府ノ同盟改訂同意	井
(四) 英國政府ノ公法ノ改訂申出ト改訂時極ニ望ム其希望	井
(五) 英國外務大臣自身ノ意見トシテ同盟改訂ニ同意ヲ表ス	井
(六) 一般仲裁條約ニ關スル英國外務大臣ノ演説	井
(七) 英國外務大臣自身ノ意見トシテ同盟改訂ニ同意ヲ表ス	井

P.V.M. 6, 761

第三章 協約改訂談判開始ノ由來	井
第一節 英米一般仲裁條約問題ニ關スル英國外務大臣ノ演説並ニ之ニ對スル帝國政府ノ回答	井
(一) 英米一般仲裁條約問題ニ關スル英國外務大臣ノ演説	井
臣ノ演説	井
(二) 右ニ對スル帝國政府ノ回答	井
第二節 同盟改訂談判開始ニ關スル帝國政府ノ申出並ニ英國政府ノ應諾	井
(一) 同盟改訂談判開始ニ關スル帝國政府ノ希望	井
(二) 英國政府ノ應諾ト仲裁條約問題ノ發展	井
(三) 加藤大使其私見トシテ英國外務大臣ニ同盟改訂談判ヲ試ム	井

P.V.M. 6, 760

見具申並之対スル帝國政府ノ回訓 井井  
 第二節帝國政府改訂案ノ提出ト英國政府ノ  
 修正意見  
 (一) 帝國政府改訂案提出ノ旨ニ訓令 井井  
 (二) 帝國政府改訂案ノ提出ト改訂時機ニ關スル  
 英國外務大臣ノ意見 井井  
 (三) 英帝國會議ノ同盟改訂ヲ贊同  
 (四) 帝國政府改訂案ニ對スル英國政府ノ修正  
 意見  
 (五) 帝國政府覺書交換案  
 (六) 右對スル英國政府ノ意見  
 第三章改訂協約案ノ確定ト協約ノ調印  
 (一) 帝國政府最後ノ決定

(一) 帝國政府改訂案ノ内容 井井  
 (二) 帝國政府改訂案ニ對スル加藤大使ノ意見  
 具申 井井  
 (三) 右意見ニ對スル帝國政府ノ回訓 井井  
 (四) 加藤大使ト英國外務大臣ト間ニ行ケル豫備  
 的會商  
 (一) 帝國政府改訂案 第五條末段ノ場合ニ關スル英國外務  
 大臣ノ考察 井井  
 附目米一般仲裁條約關スル英國政府ノ交渉 井井  
 (二) 第五條末段ノ場合ニ關スル帝國政府ノ  
 修正案 井井  
 (三) 改訂協約關スル英國外務大臣私案ノ提示 井井  
 (四) 帝國政府改訂案ニ對スル加藤大使再度ノ意  
 見 井井



重要日誌

明治三十四年九月廿五日

英国外務大臣英米仲裁条約ノ件付加波大使ニ開談ス

明治三十四年九月廿六日

英国外務大臣英米仲裁条約ノ件ニ関スル帝國政府ノ回答ヲ促ス

同日同日十七日、英米仲裁条約並ニ同盟改訂ノ件訓令

接到

同日 加波大使英米仲裁条約ノ件、美スル帝國政府ノ回答ヲ英国外務大臣ニ英一同時ニ其私見トシテ同盟改訂後ヲ試ム(同盟改訂並ニ國會見)

同日 英国外務大臣下院ニ於テ一般仲裁条約

P.V.M. 6 765

第四章改訂條約、毫表ト英國ニ於テハ評論

(一) 改訂條約ノ調印

(二) 日英兩國政府現狀、交換

P.V.M. 6 764

2-0009

0256

同廿六日	帝國議會改訂贊同(通令)(第八回會見)
六月廿六日	英國政府修正意見(回示)(第九回會見)
七月四日	帝國政府贊書(提出)(第十回會見)
同七日	右對之英國政府意見(回示)(第十一回會見)
同十日	帝國政府最終修正案(提出)(第十二回會見)
同十一日	改訂埃約案(確定)(第十三回會見)
同十四日	改訂埃約(調印)
同十四日(夜)	倫敦埃約(發表)(東京三月十五日午前發表)

P.V.M. 6 767

420270

同二十日	英國外務大臣其(臣)意見(上)同盟改訂之 同意(第二回會見)
同二十七日	帝國政府(公然)改訂希望(挨拶)ヲ 為ス(第三回會見)
同二十九日	英國政府公然改訂(同意)表ス(第四回會見)
四月三日	日英特通商條約(調印)
同五日	同上發表
同六日	帝國政府改訂案(接到)
同十三日	豫備的會商(一)(第五回會見)
同廿八日	倫敦市仲裁條約(贊成)大會
五月八日	豫備的會商(二)(第六回會見)
同十七日	帝國政府改訂案(提出)(第七回會見)

P.V.M. 6 766

2-0009

0257

其ル条約ヲ結ビタル後不章同國上院ノ否決スル所ト  
ナリ先ノ行爲アリモアレバ(既決四十三号十月一日條約上院ノ否決)英國側  
ヨリ進シテ之ヲ申出ル考ハ勿論是之モ若シ米國政府  
ヨリ更ラニハ然ル提議ヲ爲シ米國コトアラバ之ニ對  
シ先ツ先ノ如キニ様ノ回答方ヲ考案シ居レリ即チ  
第一案 該仲裁条約中ニ現在ノ日英同盟条約ニ抵  
觸セサル限リタル条件ヲ附スルコトトシ將來右同盟ノ  
期限到來後更ニ之ヲ連續スル場合ニハ何等該  
仲裁条約ニ抵觸スル所ナキ様同盟条約ヲ修訂  
スルコトヲナスカ

第二案 此際日本ヲモ該仲裁条約ニ加盟セシ  
マテハ如何ト米國ニ提議スルカナリ尤モ米國政府  
ヨリ果シテ仲裁条約締結ノコトヲ申込ミ来ルベキ

第一章 協約改訂談判開始ノ由來

第一節 英米一般仲裁条約問題ニ關スル  
英國外務大臣ノ開議、並ニ之ニ對スル帝  
國政府ノ回答

(一) 英米一般仲裁条約問題ニ關シ英國外務大臣開議  
明治卅三年九月廿六日加藤駐英大使ハ英國外務  
大臣サーエドワードグレイ氏ノ寓ニ應ジ往訪シタル所  
同大臣ハ先頃北米合衆國ノ何等官邸ニ關係ナキ  
或ル一人ヨリ英米間ニ無制限仲裁条約ヲ締  
結スル義ヲ付内張ヲ受ケタルガ此種条約ハ現在ノ  
日英同盟条約ニ抵觸スル所アルニシテ之ニ對シ  
一八九七年米國ノ提議ニ基キ在米英國大使  
ハリスフォート米國公使卿「オーネー」トノ間ニ

2-0009

0258

大使ヲ招キ愈々近日本國ヨリ一般仲裁條約ノ提議ニ  
 接スベキ様様アリト先ダテ帝國政府ノ回答ヲ促ス所ア  
 リ(從電) 翌十七日ヨリ帝國政府ニ於テハ英國外務  
 大臣ノ第二案ニ付テハ尙十分考完ヲ要スルモノト認ム  
 ト案ニ對シテハ何等異議ナキ旨同大臣ニ  
 回答方ハ其後大使ニ對シテアリタリ(轉電本尙來ハ四月)  
 一 第二案ハ次ノ如キ由ニ依リ同意スル能ハス  
 一 國家ノ身腐ニ關スル事項迄モ仲裁ニ付ス  
 一 仲裁ノ如キ案件ハ尙モ國家トシテ締結スベキ  
 一 事ニ非ズ  
 二 三ノ如キ案件ヲ締結シタリトスルモ事ノ國  
 家身腐ニ關スルニ當リテハ該案件ハ實際効力  
 ヲ有スル能ハカルコト尙然ノ勢ナリ

P.V.M. 6, 771

又吾ヤ全然不取ナルモ其 Probability ハ之レモキ  
 アラナル事ニ依リ一應日本政府ノ承諾ニ入レ同政府  
 ニ於テ豫メ篤ト考案ヲ加クニタル上何分義同答ヲ  
 得置テ考案ナル内訳セリ依テ同大使ハ外務大臣ノ  
 口吻ヨリ案スレバ前頭米國ノ一人トハ或ハ所謂在  
 野ノ平和ヲ唱道スルカネギレニテハ非ルカト推測ヲ  
 附加シテ早速右談話ノ次ヲ帝國政府ノ報告ニ及ビ  
 タリ(同電九月廿七日)  
 三 右ニ對スル帝國政府ノ回答、然ルニ一面英米  
 間一般仲裁條約締結ニ關スル事ハ同年末ニ及ビ  
 漸次高マリ来リ(同電十月廿七日) 殊ニ越ヘテ翌日迄  
 軍四年一月ニ入リテハ一層其氣勢盛ナルニ至レルガ  
 機運尙早(同電十月廿七日) 此月十六日英國外務大臣ハ更ニ加藤

P.V.M. 6, 770

2-0009

0259

第二節 同盟改訂談判開始の漢スル帝國政府  
 申出、並ニ英國政府ノ懸望

(一) 同盟改訂談判開始の漢スル帝國政府ノ希望、前  
 題仲裁条約の件同訓ト同時ニ帝國政府ハ別電  
 ヲ加藤大使ニ送リ(二) 我同長官案ノ趣旨ニシ  
 テ懸々實のヲ見ル、トナラハ英米仲裁条約ノ絶対  
 的無制限ナル結ハサルハ日英同盟之ガ障礙ナル  
 ヤノ感ヲ英人ノ向ニ起サシメ、同盟更新ヲ急フスル  
 ノ意アリ故ニ出来得ベシハ右仲裁条約ノ高議  
 ヲ撤シシテ際同盟条約ニ修訂ヲ加ヘ米國ヲ対等  
 トスニ限リ、同盟条約ノ適用ナキ以テハ明ニ以テ  
 日米舊條ニ引キ入レラル、トナキヤノ英國側ノ危

三、仲裁ノ判官ノ多数ハ勿論歐米人ナルヲ以テ帝  
 國ノ如キハ東西文化ノ差異ハ人種宗教ノ偏見  
 著ク爲メ動モ之バ不利ノ地位ニ立ツノ危険ヲ免ル  
 四、一般仲裁条約ニシテ保護主義上不可ナキモノトスルニ  
 全然新規ノ事項ナリ故ニ其結果如何ニ付テハ未  
 知何分ノ見据ヘ付カズ

(B) 然ルニ英國ノ其經濟上ノ必要並ニ加那大ト關係  
 上如何ナル怖在ヲ抱テモ努力ナラ米國トノ開戦ヲ避  
 クキハ明白ニシテ万一日米間ニ葛藤ヲ生ズルニ英  
 國ハ同盟条約ノ因テ如何ニ拘ハス極力其渦中  
 ニハラズ免レントスバク同盟条約ハ帝國が米國ヲ  
 対等トスニ限リ、事實英國ニ對シ其効力ナキ  
 中然ルニ故ニ此際第一案ヲ採用スルハ極宜

2-0009

0250

一、英米仲裁案の締結に關する英國外務大臣演説 然し  
 二、英米仲裁案の締結に關する英國側の内務  
 三、英米仲裁案の締結に關する英國外務大臣ハ  
 院に於ける國防費討論中英國外務大臣ハ  
 同一年四月十日午後二時  
 英同盟繼續の意志ナリト信スル語リタル際同大  
 臣ハ余モ亦繼續ヲ希ヒタル言ヲ披キタリ (往電二五号)  
 見ヘガリキ尤モ右談話中同大使ハ帝國政府ハ日  
 明答リ得ハサルト同時ニ概之ヲ排斥スル意向モ  
 同大臣ハ篤ト之ニ考量ヲ加ヘ置リヘキト述ヘ何者  
 タル也 (延長期限ヲ十年ト定ムルハ未タ提言セズ)  
 ンデ同盟改行ノ件ヲ全然一己ノ思付トシテ内訌シ  
 ンガラホヘタルニ同官ハ之ヲ諒シタル付同大使ハ更ニ進

P.V.M. 6, 775

限トスニ便ナラシメ (B) 他國韓國ノ併合其他東洋  
 向國ニ生シタル大要轉ニ適應スル修訂ヲモ施スヲ可  
 トスベク (C) 同時ニ新同盟条約ノ有効期限ヲ十年  
 トナスヲ得ハ帝國ノ外交方針ヲ確立スルト共ニ東洋  
 平和ノ基礎ヲ確保スルニ至ルベシ依テ前記仲裁案  
 約ノ件固々之際ニ同大使ニ於テ概宜ニ通スト徳ム  
 ル於テハ單ニ其ノ意見トシテ右改訂ノ希望  
 ラ英國外務大臣ニ陳スルハ其ノ方針令ニ奉シリ  
 (三) 英國政府ノ應謀ト仲裁案約問題ノ發展 (D) 加  
 藤大使其私見トシテ英國外務大臣ニ同盟改  
 訂談ヲ試ム 依テ加藤大使ハ一月二十日英國外  
 務大臣ニ面會先ツ仲裁案約一件來訓ノ趣

P.V.M. 6, 774

2-0009

025

良好ナル及御音ヲ送ルハ新商條ノ論調等ニ照スモ  
 其熱心ノ致強シト英國側ニ譲ラザルモノアリ示  
 スニ至レリ(同年三月十六日午後四時)  
 尚ホ之レヨリ曩キ三月十六日外務大臣ハ下院ニ於ケル  
 質問ニ答ヘテ日本政府ハ一般仲裁条約問題ニ関  
 ルニ英國政府ノ訪見ヲ極力拒ミ告ルモ今ハ其他  
 復類末竟表ノ時機ニ於テト陳述シタリ(往電ハ三号)  
 ハ英國外務大臣其レ已ノ意見トシテ同盟改訂ニ  
 同意ヲ表ス 次デ英國外務大臣ハ三月二十日  
 加藤大使ヲ招キ先ツ米國政府側ニ於ケル仲裁  
 条約問題ノ概略ヲ告ゲ更ニ流頭ヲ日  
 英同盟改訂一件ニ轉シ同大使トノ間ニ大要ヲ  
 述べ対談アリ

P.V.M. 6 777

420275

去年三月二十日西回米國大統領がナシタル一般  
 仲裁条約案ニ演説ヲ指摘シ若シ英米間ニ此  
 種ノ条約締結シ他國ニ示サバ之レノ軍備  
 制限目的ニ對シテ大歩武ヲ進ムルニ信ズト断言  
 シ若シ米國ヨリ公然提議アラハ英國ハ喜デ之レニ  
 考慮ヲ加ヘベト極メテ重要ナル意義ヲ有スル演  
 説ヲナシタリ(往電ハ三号)外務大臣ノ真意ハ主トシテ英米  
 間ノ互ニ御音ヲ惹起シ以テ對等協理心ヲ示ワレトモ  
 三月十六日下院ニ於テ質問ノ意ヲ言明シ次デ三月  
 十七日國際仲裁協會ニ於ケル外務大臣再度ノ  
 演説ハ益與論ノ歡迎ヲ受ル所ニ成リ在方面ニ熱  
 心ナル贊成運動起リ同對ニ米國側ニモ極メテ

P.V.M. 6 776

2-0009

0252

OFFICES OF THE JAPANESE EMBASSY,  
1, LYGON PLACE,  
EBURY STREET, LONDON, S.W.

大臣「然ラハ双方ノ意見一致ニ成ルルハ好ナリ」  
 大使「然ラハ双方ノ意見一致ニ成ルルハ好ナリ」  
 大使「本日ノ會談ハ政府ニ報告シ善文ナキヤ實ハ先  
 般述ヘタル本使私見モ政府ニ申立テ置キタルカ多  
 分帝國政府モ同意見ナラント思考ス」  
 ニテ後述シセシ積ナリ」  
 大臣「然ラハ双方ノ意見一致ニ成ルルハ好ナリ」  
 大使「本日ノ會談ハ政府ニ報告シ善文ナキヤ實ハ先  
 般述ヘタル本使私見モ政府ニ申立テ置キタルカ多  
 分帝國政府モ同意見ナラント思考ス」  
 大臣「然ラハ双方ノ意見一致ニ成ルルハ好ナリ」  
 大使「本日ノ會談ハ政府ニ報告シ善文ナキヤ實ハ先  
 般述ヘタル本使私見モ政府ニ申立テ置キタルカ多  
 分帝國政府モ同意見ナラント思考ス」  
 大臣「然ラハ双方ノ意見一致ニ成ルルハ好ナリ」  
 大使「本日ノ會談ハ政府ニ報告シ善文ナキヤ實ハ先  
 般述ヘタル本使私見モ政府ニ申立テ置キタルカ多  
 分帝國政府モ同意見ナラント思考ス」

P.V.M. 6, 779

OFFICES OF THE JAPANESE EMBASSY,  
1, LYGON PLACE,  
EBURY STREET, LONDON, S.W. 420276

外務大臣「同盟改訂ノ案ニ關スル閣下過日ノ法意見ハ其  
 極同感ナリが單ニ同盟ヲ改訂シ米國ヲ其適用  
 範圍外トスルハ同盟ノ効力ヲ削クガ如ク認マレルヤ  
 キニ付同時ニ其有効期間ヲ延長シ以テ兩國共  
 ニ依然本同盟ヲ重スルノ趣旨ヲ明ニシテハ如何」  
 大使「ソハ勿論義ニシテ只同盟案約ヲ更スルニ止  
 メナハ同盟ハ最早更新サレサルカノ感ヲ世人ニ與フ  
 ヘシ實ハ過日モ改訂ト同時ニ期限ヲ延長スルノ趣旨  
 ニテ後述シセシ積ナリ」  
 大臣「然ラハ双方ノ意見一致ニ成ルルハ好ナリ」  
 大使「本日ノ會談ハ政府ニ報告シ善文ナキヤ實ハ先  
 般述ヘタル本使私見モ政府ニ申立テ置キタルカ多  
 分帝國政府モ同意見ナラント思考ス」

P.V.M. 6, 778

2-0009

0263



OFFICES OF THE JAPANESE EMBASSY,  
1, LYGON PLACE,  
EBURY STREET, LONDON, S.W.

右ト同時ニ帝國政府ハ加藤大使限リノ旨ニ違ヒテ英  
米仲裁条約ハ早晚成立ニ至ルヘキハ孰必成ニ付萬  
一今回談仲裁条約ニシテ蹉跎ヲ来ストモ其締結ヲ  
豫期シテ同盟条約ヲ更新シテ西諸同盟國ノ一方  
トシテ自國ニ制限仲裁条約ヲ締結シタル國ニ對シ  
テハ自國同盟条約ヲ適用セサル旨ノ形式上一般的  
ナル規定ヲ設クルコトハ第一策ナリト思考スルヲ  
電示アリタリ (五二五號)

(六) 英國政府ノ同盟改訂同意 依テ加藤大使ハ  
三月廿七日外務大臣ニ商會訓令ノ趣挨拶ヲ及ビタ  
ル処同大臣ノ口氣ニ察スルニ愈々近日米國提議  
ニ接スルハ勿論間モ是リ調印ヲ見ルヘキヲ豫期シ  
居ル様子ナリニ付同大使ハ總ト前記改訂時

P.V.M. 6, 781

OFFICES OF THE JAPANESE EMBASSY,  
1, LYGON PLACE,  
EBURY STREET, LONDON, S.W. 420277

轉立下ノ違フヲ見ルハキニ付同盟条約ノ方モ速ニ決定  
案ヲ電示サレ故右並前頭外務大臣該法ニ對スル  
挨拶挨拶清訓ニ及ヒタリ

(七) 帝國政府公然ノ改訂申出ト改訂時機ニ關スル其希  
望 上記三月廿日ノ會談ニ付テハ帝國政府ハ深ク  
満足ノ意ヲ表シ右要左ノ趣旨英國外務大臣ニ  
挨拶方面同旨のヲ以テ加藤大使ニ回訓アリ

一 帝國政府ハ東洋ノ平和ヲ確保センカタン單ニ日英  
同盟ヲ繼續スルニ止マラス益々之ヲ健全以華國ナラ  
シメンコトヲ切望ス 今回同盟改訂ニ關シ英國外務  
大臣ト帝國大使トノ間ニ交換セラレタル意見ハ全ク  
帝國政府ノ所見ト合致シ帝國政府ハ速ニ其案ヲ  
ツ見シコトヲ希望シテ巴マサルモノナリ

P.V.M. 6 780

2-0009

0254

第一致ノ積習感ヲ得タリト述ヘ更ニ進テ左ノ諸点ニ関  
 シ強張アリ  
 内如何ニ修メスヘキカ 二国シテハ外務大臣ハ仲裁  
 条約ノ案文異感ハ後ニ作レバ決シ難キモ特ニ  
 国名ヲ指定セス一般ノ規程ヲ後クルルニハ同意  
 ナリト云ヒ  
 (B) 期限問題 二就テハ一九二〇年迄トス(キカ  
 二一年迄トスルモ可ナルシト誤リタルニ依リ加藤大使  
 ニ控テモ或ハ二一年迄トシ然ラシカト甚ヘタリ  
 (C) 国負中同盟延期ニ反対者モキヤ トノ  
 大使ノ固ニ対シ大臣ハ之レ迄ナキモノナレバ兎モ南  
 存ルモノヲ廢スルハ極メテ大事ニシテ日本モ新タニ  
 造船シ英國毛軍艦ヲ東洋ニ増派スル等ノ

極ニ固ク希望(前題中二節(二)(三)ハ流シ出サス唯米  
 國ニ先立テ同盟条約中ニ掲ケ置キ若シセネトレノ  
 反対等ノタン仲裁条約批准ニ至ラサル如キ場合アラハ  
 甚奇異ナルモノトナルヘキニ依リ同盟条約中ニ概  
 括的ニ兩締盟國ノ一方トシテ之ヲ制限仲裁条  
 約ヲ締結シタル國ニ適用セサル旨ヲ規定スル方  
 然レバセントノ執着ノミヲ本ヘタルニ同大臣ハ何レ仲裁  
 条約ノ案文異感マリアトシテ相讓スヘント云ヒタル  
 ニ付同大使ハ帝國政府ハ何時ニシテモ改訂ノ協議ヲ南  
 ク心得ナリト陳ヘテ別ヲ告ケタリ(九三号)  
 越ヘテ三月廿九日外務大臣ハ加藤大使ヲ招キ未國  
 トノ仲裁条約ニ關係シ白英同盟条約ヲ改訂シ  
 且ツ其期限ヲ延長スルノ内閣會議ニ控テ滿

2-0009

0285

於テハ同盟条約ノ重大ナル変更ヲ豫期シ居ラザル故特  
 ニ重要ナル事項ヲ加ルハ不得策ナルヘシトノ意見ヲ附  
 加セル也(九號電)帝國政府於テハ或ハ滿洲ニ於テ我  
 特別利益擁護等ニ關スル規定ヲ設ケルノ内意ナルヤ  
 ニ案セラレタルニ依リ(九號電)同大使ハ三月三十日大要  
 左ノ如クノ意見ヲ政府ニ電報シタリ(九號電)  
 I 斯ル修訂ハ尤ノ理由ニ依リ英國政府ノ同意ヲ  
 得ル望ミナキコト  
 (4) 英國政府ハ海軍關係以外ニハ日英同盟  
 ニ對シ通却ナル利害ヲ感シ居ラス  
 (3) 英國國民ノ同盟ニ對スル熱心冷却ニ同  
 盟ハ日本ニシテ利用セラレ甚キハ全然同盟  
 精神ニ及ビ滿洲ノ利益ヲ壟斷セシトス

必要モ起リ相宜ニ甚ク好マシカラサル結果トナルヘク隨テ  
 繼續ハ閣員ノ舉ラテ悦ブ所ナリト述ヘ  
 (1) 仲裁条約ノ成行 ニ關シテハ未ダ何事發展  
 ナキニ近キ内米國ヨリ提議ニ接スルヘシト卷タリ  
 (注電九五号、七月十号、俄電二九号参照)  
 第二章 談判ノ進行  
 第一節 改訂條約案ニ關スル帝國政府ノ  
 意見  
 (1) 帝國政府改訂案ノ内容ハ加藤大使ノ意見具申  
 (2) 滿洲ニ關スル規定挿入ニ付加藤大使ノ意見具申  
 同盟改訂件英國政府閣議決定ノ執ヲ帝國政  
 府ニ電報スルニ際シ加藤大使ハ英國外務大臣ニ

2-0009

0256

中ニハ之レニ關スル規程ヲ設ケザル

(口) 帝國政府改訂案ノ内容 次デ四月廿五日ニ至リ  
帝國政府ノ方針大要ヲ一過ク決定シタルニ付適  
當ノ折ヲ以テ改訂ノ交渉ヲ開始スヘク尙愈談判  
開始ノ場合ニハ可成我ヨリ進シテ改訂案ヲ提出  
スルノト改訂旨訓令アリ (六三號) 同時ニ附屬第一  
号ノ通ナル新協約案ヲモ電報シ来レリ (六三號)  
一 期限ハ調印ノ日ヲ十ヶ中トスル (同案)  
二 締盟國ノ一方ト一般締約者有ル第三國  
ヲ同盟條約適用範圍外ニ措ク旨ノ規定ヲ  
追加スル (右ハ) 特ニ米國ノミヲ指定スルハ  
形式上穩カナラザルノミナラズ同盟改訂ノ条件  
裁奪約締結ニ先ツトスルベキ時期ノ一般約

ルモノナリトノ攻撃サハアルノミナラズ政府党部内ニハ  
幸徳事件等ノ結果日本ヲ野蠻ナル專制  
國ト認徳ニ居ルモノモ鮮カラス同盟ヲ締  
續スルノミナラズ滿洲ニ關スル規定ヲモ設ケシニハ  
英國ノ準備ハ必ズ之ニ反對スヘシ  
(C) 且又之ヲ外ニシテハ滿洲開港ニ熱中シツ、アル米  
國人ノ感情ヲ害スルハ勿論清國ノ日英同盟ニ  
對スル惡感ヲ深クシ英國ノ利害ニ影響者スルコト  
極メテ鮮チナラザルベシ  
II 加之英國ニ於テモ却テ我底意ノ程ニ疑懼ノ  
念ヲ懷キ同盟繼續該條約上ニ意外ノ障  
碍ヲ生ズル恐レナキニアザルベシ  
III 依テ滿洲ノコトハ害地ノ解決ニ委シ改訂協約

有る特殊利益ヲ以て認めらるる條約ノ規定ヲ追  
加スル。一九〇五年ノ條約第四條ハ第三條ノ代  
償的規定ナルモ韓國併合ノ結果第三條ハ  
必要ニ帰セシト同対ニ亞細亞大陸ニ於ケル帝國  
ノ地位關係ハ印度ニ於ケル英國ノ地位ニ酷似シ  
来レリ故ニ在英第四條印同國境ニ關スル規定ニ  
對シ頭書ノ趣ヲ追加スル。(同條)

(イ)帝國政府改訂案ニ對スル加藤大使ノ意見具  
申前部改訂案ニ對シ加藤大使ハ四月七日ヲ以テ  
大要ヲノ意見ヲ帝國政府ニ具申シタリ(謹啓)

工改訂案第五條末段一般仲裁條約ヲ有スル  
第三國ノ交際ニ際シ他國が該國ト加盟  
スルカ又ハ該第三國が他國トノ交際ニ加入スル

規定トスヘキ(同條) (ハ)斯クテハ隨喜ニ執シノ  
國トモ一般仲裁條約ヲ締結シ得ルカ如キ事ト  
ナル故該條約締結ノ如ク同盟ノ効力ニ影響  
御者ヲ及ボス事演ニ就テハ相互ニ協議ヲ為スヘ  
キ旨ノ意味ヲ以テ一九〇五年ノ條約第五條ヲ擴  
張シ前文ニ記述セル目的ナル制限的文言ヲ削除シ  
(同條) (C)又一般仲裁條約ヲ有スル第三國トノ交  
際ニ際シ他國が該國ト加盟スルカ又ハ該第三  
國が他國トノ交際ニ加入スル場合ニ關スル規定  
ヲ後シル。(同條第五  
條末段)

三一九〇五年ノ條約第三條及第六條ヲ削除  
スル。

四英國が於テハ帝國が其國境附近ニ於テ

2-0009

0288

II一九〇五年協約第五條ヨリ「前文ニ記述セル目的ナル文句ヲ削除スル」ヲ止メ依然旧ノ如ク爲シ置ケル

(理由) (a) 已ニ仲裁條約ノ締結ヲ是認シ同盟ノ不適用ヲ明ニスル以上改訂案第四條ハ寧ロ一般仲裁條約締結ノ場合ヲ意味シ居ラズト解釈サルハ、(b) 實際ニ於テハ英國ガ他國同盟ノ目的タル強國トシキ將來ニ於テ一般仲裁條約ヲ結ブヘシトハ思ハレズ、(c) 又及今明文ナクモ英國ニシテ他國ト仲裁條約ヲ締結スル場合ニハ必ずスルニ我々方ト打合ハスベシ

(二) 右意見ニ對スル帝國政府ノ回訓 上記提出意見ニ對シ四月十日同十日帝國政府ヨリ左ノ意味ノ回電アリ

P.V.M. 6 791

協約ヲ例外トスル規定ハ之ヲ削除スル

(理由) (a) 斯クテハ仲裁條約ハ絶対的ニ制限タル條ハスレテ同盟改訂ノ主旨トシテ之レ違我々方ニ連ヘ来リタル論理ヲ設却ス、(b) 將又英國ハ自己ニ立脚スル米國ト對シテ意ナキ以上他國ノ参加スルトおトニヨリテ區別アル筈モ多ク若シ第三國トノ之戰ニ得ル場合アリテ且之ヲ英國ノ利益ト認メテハ自ラ戰フベキモ之等ハ實際ノ協約ニ依リ決スヘキ問題ニシテ前記ノ如キ例外ニ英國政府ハ同意シ能ハサルヘシ、(c) 而モ尙帝國政府ニ於テ飽達右例外ヲ設ケント欲サバ至急英國外務大臣ニ對シ之ニミデテ法律ヲ行ハスルノ要アリ

P.V.M. 6 790

2-0009

0259

ハ帝國ノ國防ニモ密接ノ關係ヲ有スル重大事項ニシ  
テ未定又ハ不明ノマツト爲シ置ク能ハズ故ニ特ニ之ヲ  
明文ニ表ハサントスルカ當初ヨリノ趣旨ニシテ(C)又英  
国外務大臣ニ前記ノ趣ヲ考究スルニ於テハ必スシモ  
右規定ニ反対ナラザルベキニ付先ニ前記第五條未  
改存置シ度ク(六五号)D尚又在米大使電報ニ  
ヨレハ英米毛制限仲裁条約ハ目下成立ノ望ニ  
甚勤キ據極故膏々我改訂案ノ趣旨ハ可成  
今暫ク先方ニ託シ出サルト改度シ(六五号)  
II改訂案第四條ハ之ヲ一九〇五年ノ協約第五條  
ノマツト爲シ置クモ強テ異存ナシ(六五号)  
依テ同大使ハ十日電ニテ先方ノ解釈ハハシテ帝  
國政府所見ノ如クナラザルベク且今ハ只問題ノ起

I改訂案第五條未改場合ハ(A)孰レモ仲裁条約ノ  
適及ラ構成ス例ヘバ(1)日本ト他國トノ戰爭際  
ニ米國ガ右他國ニ加盟セシカ同盟条約ノ規  
定ニ遵ヒ英國ハ日本ト共ニ右他國ト交戦ノ  
スヘキ故此場合ハ米國ガ自ラ違テ英米仲裁  
条約ニ適及スルモノナリ(2)日米交戦ノ際他國  
ガ米國ト加盟スル場合ハ右他國ガ日本ノ敵トナルニ  
付当然英國ノ敵トナルハ當初ヨリ明ナル事實タ  
ルニ拘ハラズ米國ガ違テ其加盟ヲ凌議スルハ之レ  
亦自ラ仲裁条約ニ違及ラ爲スモノナリ故ニ兩場  
合トモ仲裁条約ニ於テ之ヲ豫見シテ何等制  
限的規定ヲ後クヘキモノニ非ズ(B)而モ該第  
五條未改ノ場合ニ於ケル同盟条約ノ効力如何

2-0009



元タル根本趣意ニ付先方ノ誤解ヲ釋カントスルニ止マル  
旨ヲ電報ニ政府ノ再考ヲ示メタル也 (後電百五  
二〇六号) (然レハ  
政府ノ考察トナサズ單ニ己ノ研究問題トシテ第  
案未段ノ場合ヲ英國外務大臣ニ内託シ其考慮  
ヲ促シ置クモ是支ナキト回電ニ接シタル也 (後電  
百五二〇六号)  
(二) 加藤大使ト英國外務大臣ト間ニ於ケル豫備的會商  
(一) 兩國改訂案未段ノ場合ニ關スル英國外務大臣ノ  
考察 茲ニ於テ加藤大使ハ四月十三日外務大臣ニ  
會見第五案未段ノ場合ヲ同大使一己ノ研究ノ  
結果トシテ示シタル也同大使ハ先刻未國大使ノ  
問ニ對シ日英同盟ヲ仲裁條約ノ障礙タラシメ  
サルノ付テハ日本政府ト意見交換濟ノ旨ヲ  
内託シタル也先ダ試ニ自ラ起草シタル附屬

第二号通 同盟条約挿入文句ヲ示シタリ依テ同大  
使モ亦此条ノ案又ヲ私案トシテ示シタルニ同大臣ハ  
閣議ノ上(一) 復令戦争ニ加ラズトモ外交上各種々ノ  
援助ヲ與フ得ル場合モ尠カラザルベキカ故ニ同盟  
ノ効力ヲ全然停止スル大使ノ私案ヲ同大臣案  
ノ方優レトシ(二) 將又該第三國ニ他國加ハル時  
ハ其國ハ同盟双方ノ敵ナリ又該第三國ガ他  
國ニ加ハルハ己ニ同盟双方ト戦争中敵國ニ加ハル  
譯ニテ事實有リ得バカ知同大臣ノ案ハ大抵夫  
等ノ事項ヲモ念シ得ヘキトノニ案ヲ述ベ尤モ  
後案ニ案ニ半分ニ自ラ起草シタルモノニシテ白日  
休暇ヲ取り地方ニ赴キ付 (後電百五二〇六号) 研究  
セシメ置ク考ナリト流リタルガ (後電百五二〇六号) 同大使ハ以上

2-0009

027:



義上之ヲ承諾セサル考 (第一三章) ナリシニ付四月十三日  
 全大使ヲシテ日米毛制限仲裁条約締結ノ問題ハ英  
 米仲裁条約等ノ効果ヲ見タル上ハ免モ南目下ノ此  
 之ヲ提議スルニ到座帝國政府ノ同意ヲ得ル望ミナ  
 シト思考スルノ旨提議セシメタリ (在英大使宛本番来  
 九一号及本番宛在英大使館二二八号)  
 口 第五案手段ノ場合ニ關スル帝國政府ノ修正案、  
 諸又前題英國外務大臣ノ議ニ對シテ帝國政府ニ於  
 テハ(一)一般仲裁条約ヲ有スル第三國トノ戰爭ニ際  
 シ締盟國ノ一方ニ對シ單ニ交戦ニ参加スル義務  
 太ク解除スルノトナスベシト共國外務大臣ノ考察  
 ニ同意ヲ表スルト共(二)當該仲裁条約が現ニ効  
 カラ存シ居ル場合ナリト明ニスル為メ "Concluded"

P.V.M. 6 797

次ヲ帝國政府ニ電報スルト共ニ英米仲裁条約  
 ニ關シ英國外務大臣が依然成功ノ望ミヲ懷キ居シ  
 ルハ多ク之ノ際自ラ同盟血修訂案ヲ起草セルコト  
 及四月廿日倫敦市長ノ催ニ係ル仲裁条約成  
 立賛同ノ會合 (四月廿九号) ニ首相並ニ反對党信  
 理ノ演説アルニ徴スルモ之ヲ案シ得ルキ旨ヲモ具  
 申シタリ (附電)  
 附 (日米一般仲裁条約ニ對スル米國政府ノ交渉)  
 之レヨリ曩キ米國政府ハ日独佛等ニ對シテモ亦  
 一般仲裁条約締結ヲ申込マヤノ噂アリタル結果  
 ニテ四月下旬同政府ヨリ日米一般仲裁条約締  
 結ノ義ニ付在米内田大使ノ意見ヲ内閣セン  
 ヲカメ来クタニガ (来電) 帝國政府ニ於テハ主

P.V.M. 6 796

2-0009

0272

一、此ハ「*in force*」ナル文字ヲ以テシテ(1)且之レニ  
 外五條未改ノ意味ヲ加ヘタル附屬第三号)又ハ同外  
 四号(此ハ英國外務大臣ノ案文何レカヲ提出シテ音  
 電報シテ来レリ(註電七〇))  
 (1)改訂條約ニ關スル英國外務大臣秘案ノ提示、  
 一方英國外務大臣ハ休暇後五月八日加藤大使ニ面  
 會談調 *report* ノ研究ニ附シタル改訂同盟條  
 約ニ關スル草案ヲ示シタルが内容ハ前回會見ノ  
 節(1) (準備)ト變化ナキモ追加條約ノ形式ト爲  
 リ居ルニ付同大使ハ先づ右ハ(1)期限延長ノ規  
 定ナキ(2)仲裁條約モ廢案又ハ中止ニ帰スル  
 ヲトアルハキ(3)ニ点ヲ指摘シタル同大使ハ期限  
 一トハ *report* ニ德ハ一ツ失念シ居タリ(4)外ニ

一、此ハ「*in force*」ナル文字ヲ以テシテ(1)且之レニ  
 外五條未改ノ意味ヲ加ヘタル附屬第三号)又ハ同外  
 四号(此ハ英國外務大臣ノ案文何レカヲ提出シテ音  
 電報シテ来レリ(註電七〇))  
 (1)改訂條約ニ關スル英國外務大臣秘案ノ提示、  
 一方英國外務大臣ハ休暇後五月八日加藤大使ニ面  
 會談調 *report* ノ研究ニ附シタル改訂同盟條  
 約ニ關スル草案ヲ示シタルが内容ハ前回會見ノ  
 節(1) (準備)ト變化ナキモ追加條約ノ形式ト爲  
 リ居ルニ付同大使ハ先づ右ハ(1)期限延長ノ規  
 定ナキ(2)仲裁條約モ廢案又ハ中止ニ帰スル  
 ヲトアルハキ(3)ニ点ヲ指摘シタル同大使ハ期限  
 一トハ *report* ニ德ハ一ツ失念シ居タリ(4)外ニ

2-0009

0273

果シテ如何  
 外務大臣「第一第三國が米國に加盟スル場合ハ該國ハ  
 英國ノ敵故英國ハ之ヲ戦フバク第二米國が牙  
 三國ニ加盟スルカ如キハ到底ニ開戦コトナリ」  
 大使「吾帝國政府ノ意見ニテハ第一ノ場合ニハ英國ハ米  
 國トモ戦フヲ要スルニ執意ニシテ且實際ニ第三  
 國ト米國トカテ戦フヲ結ガル場合モアルベク  
 第二ノ場合ニ於テ米國ハ英國ニ對シテハ戦ハズト  
 毛日本軍中ノミヲ攻撃シ得ル場合ナシト限ズ」  
 大臣「併シ貴國ノ如ク例外ヲ設ケタルセバ英米仲裁  
 条約中ニモ例外ヲ設ケサルヘカラスシテ甚好マシカ  
 ズ且ツ其書キ頭ハシ方モ極メテ困難ナリ」  
 又去日本政府強テノ希望トアラハ尙再考スベシ」

更ニ同大臣ハ近日中ニ仲裁条約ノ草案米國ヨリ  
 来ルベキモ此月初新簡儀上ニ顯シタル条約草案ナル  
 モハ全ク新簡儀ノ精神ナラント云ヒ(五月三十一日 概略ニテ)第一  
 兩國ハ如何ニ場合ニ於テモ戦フシテ戦争セサルコトヲ  
 規定シ次ニ極メテ些細ナル事項ハハハスレモ仲裁ニ附  
 ルヲ要セサル様相尙ノ規定ヲ設ケ以テ考テ上自ラ  
 議レリ尙ホ右議院中 外務大臣ハ攸リニ仲裁条約  
 ノ成立ニ遲延スルモ在尙往々同盟期限経過後ノ事  
 ヲ彼是評論スルモノアルニ付(之レ英國海軍擴張論  
 者等ハ日英同盟ハ一九一五年ヲ以テ終了スルコトヲ  
 前提シ國防問題シ云為スルノ事情ヲ意味ス)五月十一日據  
 云ヒ加波大使ハ帝國政府ノ意見モ同様ナリ

果シテ如何  
 外務大臣「第一第三國が米國に加盟スル場合ハ該國ハ  
 英國ノ敵故英國ハ之ヲ戦フバク第二米國が牙  
 三國ニ加盟スルカ如キハ到底ニ開戦コトナリ」  
 大使「吾帝國政府ノ意見ニテハ第一ノ場合ニハ英國ハ米  
 國トモ戦フヲ要スルニ執意ニシテ且實際ニ第三  
 國ト米國トカテ戦フヲ結ガル場合モアルベク  
 第二ノ場合ニ於テ米國ハ英國ニ對シテハ戦ハズト  
 毛日本軍中ノミヲ攻撃シ得ル場合ナシト限ズ」  
 大臣「併シ貴國ノ如ク例外ヲ設ケタルセバ英米仲裁  
 条約中ニモ例外ヲ設ケサルヘカラスシテ甚好マシカ  
 ズ且ツ其書キ頭ハシ方モ極メテ困難ナリ」  
 又去日本政府強テノ希望トアラハ尙再考スベシ」

2-0009



ヲ主張セバ存置ヲ強テ理由ナキ故にムラ得ズ之レニ同意スルコト

四改訂案第五條末段ヲ削除スル一、蓋シ外務大臣ノ後氣並ニ該法ニ案シ英國政府ノ同意ヲ得ル望ミナク自巳ノタメニサハ米國トハ對シテ戦ハザル英國が他國ノ初メニ之ヲ敢テスベキ所以ナキハ自明ノ理ナレバナリ

右意見ニ對シ五月十二日左ノ意味ノ回訓アリ (電報 七十七号)

一、前文ハ附屬第五号ノ直修トスル一

二、改訂案第七條ノ同大使意見同トスル一

三、改訂案第三條ノ可成存置トスル一

四、改訂案第五條末段ノ事項ニ關スル帝國政府ノ所見ハ是非共之ヲ英國政府ニ披歴シテ之ニ對スル

ント答へタリ (電報 二二号前段)

(二)帝國政府改訂案ニ對スル加藤大使再對ノ意見具申並ニ之ニ對スル帝國政府ノ回訓、次テ五月十日加藤大使ハ比隣我改訂案ヲ左ノ直了修訂方具申ニ及ビタリ (電報 二二号後段 音ナ日探電ニテ号)

一、前文ハ仲裁第の件ニ言及シ居ラズ而モ之ニ言及スルモ好マシカラズル故寧ろ一九〇五年協約前文ト同形式トナシ置ク一

二、從テ改訂案第七條ハ一九〇五年協約第八條ト全然同一ニシテ "Subject to the provision of Article VI" ナン句ヲ削除スルニトスル一

三、改訂案第三條國境ノ件ハ我案ヲ採用セシムルコトニ盡カスベキモ若シ英國政府ニ於テ之が全廢

(四)帝國政府改訂案ノ提出ト改訂時極ニ固スル英國外  
 務大臣ノ意見 乃チ同大使ハ五月十七日外務大臣ニ  
 面會シテ案訓ノ趣旨ヲ述ベ且附屬第六号ノ改訂  
 案ヲ交付シタル処同大臣ハ自カノ意ハ仲裁案約案  
 ノ將ニ提出セラントスルニ夫レヲモ待タス又其規定トノ關  
 係ヲモ考査セス並ニ協約ノミツ改訂スベシトノ主旨ニア  
 ラズ可成ハ仲裁案約同盟案約双方同時ニ締結シ  
 致キモ若シ前者ニシテ不成立又ハ其成立ノ見込ナ  
 キニ至ラハ其節ハ同盟改訂先ヲ先チテ案約スル  
 フニシテ改訂ト云フニアリ故ニ協約改訂モ自ラ仲裁案  
 約ト同盟案ニテ適當ノ時機ニ於テスルヲ要スルヨリ又仲  
 裁案約不調ニ帰スルモ、議會閉會ニ接シ又閉會後事  
 同盟改訂ニ調印スルヲモ好マンカラズ、此ノルニ本年議會ハ

同政府ノ意見ヲ明確ニ承テシ置キ度ニ付矢張其提  
 案スル  
 第二節 帝國政府改訂案ノ提出ト英國政府  
 ノ修正意見  
 (イ)帝國政府改訂案提出ニ關スル訓令 帝國政府  
 ハ前回訓令同封ニ英米仲裁案約ノ進メ如何ニ拘ラ  
 らズ此際同盟改訂ヲ結了スルニシテノ英國外務大臣ノ  
 意見ヲ好極トシ速ニ改訂談判ヲ開始シ且改訂  
 案ニ可成致レヨリ提出シ改訂ニ付至急英國外務大  
 臣ニ會見シ改訂談判開始時極ニ固スル同大臣ノ  
 意見ハ全然帝國政府ノ所見ニ符合セルニ満足セル  
 趣ヲ先ダテ改訂案ヲ交付スルキ旨併セテ加  
 藤大使へ電訓(來レリ) (七十八号)

2-0009

0276

48

(イ)英帝ハ合議ノ口盟改訂賛同 次デ五月廿六日英外務大臣ハ加藤大使ヲ招キ林晋朝恰モ閣会中ノ帝子合議(即英駐民地七五條後四三号)ニ批テ孫ヲ我カト打合議ノ条件ノ下ニ口盟改訂長ノエトヲ内出シ先ニ口盟改訂大ヲ先キニ塞リスルモ其好都合トナレリト告ゲテ其際海峽及ニュージールランドノ代表者ヲ日本移民ノ將來ニ付野合ノ論アリシモ口大ハ其杞憂タルヲ視キ且日某口盟ノ本洋及テ世界ノ平和知ニ大ニ効力スルヲ述ビテ日本ガ信義ノ如ク特種シタルニ加テ其大ニ省おも自宗ノ実験ヲ移民ノ件ニ付日本政府ノ信賴スルヲ激賞シ口件ハ其マハ口盟ノ由ニテ其概ヲ述ク又近日来ヨリ接手

47

口盟改訂会スルキニ付或ハ口盟改訂ノ明年ニシテ期スルモナルニ要スル事多ク提出ニ未ル仲裁案約案ノ容易ニ達スルキ性質ノモノトヤ否ニテ決シキモノナリトハ御意ヲ述ベ口盟改訂ノ口盟改訂案ヲ三條及テ五條但書ニ付帝ガ改訂ノ意ヲ陳シタルニ対シ口大ハ仲裁案約案モ遠カラズ提出ノ模様ニ付此際口盟改訂案ヲ得タルニ双方比較考量ノ上ニ批テ便宜ナリ何レ協僚トモ協議ノキカ仲が子境ノ望ニ起シ存続ニ付テハ仲が政廳ノ意ニ同合イセ申ナルヲ述ベリ後日大使ハ右ノ事情改訂案約案中ニ選リモ七月末迄ニシリスルハ明年三月改訂ノ期ノ外ナカラシカト思考スルハ加藤大使ニ電報ヲテ其又翌十日口新報我ハ合議ノ事多ク提出アリタル由ヲ報ジタリ

2-0009



50

同盟条約の韓方が日韓同盟の刷新の便を以て滿洲の進  
出に對し精進ス。一方伊方ハ其露ノ關係今日ノ如ク成  
ん以上致其必要也。露ノ進出ハ其露ノ關係今日ノ如ク成  
多クノ要アルモ右ノ前文中ニ是キ是リ日本ノ方モ同  
様ト然ルハ其必要ハ合點之ヲ別除ス。一。  
ニ、第五條未改。協定ハ(一)日露交戦  
ノ際其等之ニ加セントスルハ其等ノ海軍ヲ以テ  
之ヲ防ク。困難ハ(二)日本ト其以外ノ第三  
トノ戦争ニ付テハ其等ハ日本ト共ニ交戦ス。アル場合  
ニテ、其等が之ニ加スルハ彼ノ自ラニ加スルヲ取ルモ  
、其結果ト對テモ其責ニ任セザルハカラス。斯ル協定  
ハ實際ノ解決ニ資スル外其ノ隨テ其等未改(即  
Amiens)以下ハ其外之ヲ別除ス。一。(四)且又日露中

P.V.M. 6 809

49

ニ、第五條未改ハ其外之ヲ別除ス。一。(四)且又日露中  
ニ、第五條未改ハ其外之ヲ別除ス。一。(四)且又日露中  
ニ、第五條未改ハ其外之ヲ別除ス。一。(四)且又日露中  
ニ、第五條未改ハ其外之ヲ別除ス。一。(四)且又日露中  
ニ、第五條未改ハ其外之ヲ別除ス。一。(四)且又日露中  
ニ、第五條未改ハ其外之ヲ別除ス。一。(四)且又日露中  
ニ、第五條未改ハ其外之ヲ別除ス。一。(四)且又日露中  
ニ、第五條未改ハ其外之ヲ別除ス。一。(四)且又日露中  
ニ、第五條未改ハ其外之ヲ別除ス。一。(四)且又日露中  
ニ、第五條未改ハ其外之ヲ別除ス。一。(四)且又日露中

P.V.M. 6 808

2-0009

0278

(2) 又、其冒頭 "Would Great Britain conclude a Treaty of General Arbitration" 以下、

(3) 原案中「第ニハ」文字ノ代リ「本」ヲ指スルニ

(4) 各条中ニ「早」ヲ「三」ト記載シテ、實際ハ本

ノ「三」ヲ意味スルモノナルヲ秘密文書ヲ以テ明シ

7

たが右四案并各々具アルヲ免カシザルニ付、原案ニ但

者削除ヲ可トスル旨、直譯あり(復電一三〇号)

(ホ) 帝ノ政府ノ覚書ニ交換ノ案 右ニ対シテ、六月三十日

左ノ意味ノ回答アリ (詳後)

一、第三案 ニ就テハ、全種ノ削除ニ同意スル。

二、第五案未成 一、多項ニ関シテ、(a) 今回英外務大臣

「Infinite」: General 以下、

(c) 尤モ英外務大臣

他ノ條ヲト雖、ノ仲裁條約ヲ結ビ、日英口頭力多ク且本

諸君ニ対シテ、効力ヲ加セテ、トタルカ、本原ヲ日本ニ托シ

懷シニ托シ、或ハ本條ヲ附屬第七号ノ通折ニシテ

可トス。

依テ口頭使ハ、我邦ト戰ヒ且我邦ニ托テ英外務大臣ノ援助ヲ

要スルカ、如キ地位ニ在ルト、英外務大臣ノ一般仲裁條約ヲ結フ

7、強シク世カニキニ付テ、五案未成、但者削除ニ同意

之點ニ付、シト思考スルモ、若シ第一、政府トシテ英外務

務大臣ノ所後、如キ點、今ヲ懷シニ托シ、ハ、下記四條中

其一ヲ扱ハ、外ニナルビ、即チ

(1) 英外務大臣ヲ提テ、別案タル、附屬第七号ノ如シ

件ニシテ

2-0009

0279



大下ハ閣議ノ止覽書ヲ交換スルニ世海公表セラル得  
 カル故字句モ修訂ヲ要ス(ソノ何レ明瞭係トモお後スニト  
 多少躊躇ノ意味ヲ示ス(後電)  
 次テ七月七日日大使ニ更ニ外務大臣ニ面会シタルニ果  
 シテ日大使ハ我党表ハ尙未ダト戦フ場合アリト云  
 モリテ老若ノ民ノ感情ト一致セズ故シ右交換ニ停止  
 スルヲ囑儀一日ノ意ヲナリ蓋シテ三ツカ加ハル場合  
 三ハ其ハ廿餘ヲ防リヘリ、事ハ加ハルニ加ハル場合  
 官際ニ之レカヘトハ思考セズ、就テハ是書ニ交換ヲ  
 癢ニ在リニ案中其一ニ決定セントスヲ提議シタリ  
 第一案、単ニ原案ヲ未攸 Under 以下ヲ削除  
 スル  
 第二案、前記附録ヲ七号ノ併合案冒頭ヲShould

ノ説明ニテ日大使ノ意ヲ明瞭トナシ付右未攸ノ削除  
 二ノ意トモ、該說明ニの成テテ文書ニ残シ置キルニ付附  
 屬書ハ其ノ一覽書ヲ日大使ニ定附シ之ヲ成シ  
 書ヲ以テ了第一方回答ヲ得ル(6) Underlined  
 Generalト改メニ思存ナキ(7) 一般仲裁案均締結  
 此ノ同盟ノ効力ニ影響ヲ及スニキ可項ニ就テハ明文  
 世トモ互ニ折合セヨトニキハ勿論ナルコトハ高下政界ハ  
 英子政界ノ誠意ニ信賴シ此其ニ固シ何事ノ疑  
 懼ヲモ有セザルニ付日大使ヲ附原ヲ七号ノ併合案  
 一提出アリニ之ヲ拘ラズ單ニ我党知リ提議未攸ノ  
 削除ニ同意セル次方ナル者說明ニキ  
 (8) 右ニ對シ英子政府ノ意見 七月四日加藤大  
 使ハ其ハ外務大臣ニ面会右意見ヲ定附シタルニ日

2-0009



56

最早通印(直)ニ付シ旨附言ニテリ  
依テカ藤大使ニテラ電報(後電)一四三(身)スハト曰ハシ左記  
要乙ヲ付シテ政府ノ決意ヲ清一リ  
右ノ決意ニテ 置書交換ハ到る英女政府ノ曰ヒ  
ヲ得ル地ニナキニ依リ 妙務大臣ノ三案中一其ニ  
ヲ採ルノ外ナシト認ムク  
第一案 ハ妙務大臣ノ復(在)者ナリニ節  
ノ(二)年(四)ノ如キ嫌アルノ(三)者ニテ 甚クモナク  
更ニ他ト仲裁条約ヲ締結スルニテ 吾方ニ  
好義アリタルニテ 故障ヲ提出スルニテ 吾方ニ  
可能ニテ、且一般の規定ハ 後日却テ可成ノ  
鉅額ヲ来ス虞アリ  
第二案 ハ片断ニテ不ナリ。

P.V.M. 6 814

55

(Great Britain conclude) "ト改ムル。"  
第三案 附録九号ノ案ヲ採用スル。"  
曰大下ノ右ノ三案ハ 二案ヲ双務的ニ改メタルノ  
ニシテ 且英子ノ佛子其他トモ 追テ仲裁条約ヲ結フ  
コトモ 或ハ之アルベク、其都ハ日本ハ同盟ノ効果減少  
スルカ如ク感スヘキ故実ハ日本ニ取リテモ 最良案ナラン  
カト思考ノス、尤モ 次河強子ハ 孰モ 或ハ 陰謀  
ニ屬スルヲ以テ 未カノ 協定ト異レリト云ヘリ 案ニ  
其多クハ 次河強子ト 仲裁条約ヲ結フモ 亦互ニ同盟  
条約ニ 執着セタル 範圍内ニ 此ヲ云フコト云フカ如  
キ 適者ナク 解決法アリテ 何レノ 協定ニ 此ヲモ 戦  
争ヲ以テ 拒絶シ 仲裁条約ヲ結ビ得ルニ 未カ  
ニミナリトノ 主事ナリト曰大下ハ 又英子 仲裁条約ハ

P.V.M. 6 813

2-0009

028



仲裁条約締結ノ故障ヲ撤去セントシテ本邦ヲ設ケ  
 心在ルハ本邦政府初之ヲ席スルナラント作スル旨附キセ  
 るムトシタハ概テ後々(往電一五五号)  
 将又、改訂協約ノ発表ハ本邦政府ノ希望ニ  
 依リ備致ニ於テハ十四日午後、東京ニ於テハ十五日午  
 前ト決定シタリ(往電一五五号、一五七号)  
 (二)日英両政府親善ノ交換 斯ク新  
 協約モ本邦政府了シタルヲ以テ七月十四日席キ  
 政府ハ附屬条約ノ一号ノ用英外政府ノ親善  
 並謝意条約ノ一ノキガ加藤大使(往電アリ  
 (往電一五七号)、然レモ本邦外務大臣不在ナリト付  
 日大使ヨリ半信ヲ以テ右ノ御中送リ置キ  
 付ニ付、日大使ヨリ七月十七日付ヲ以テ附屬条約十二

ヲ要スル概テ告ケタリ(往電一四四号)  
 次ノ内十日日大使更レ物務大臣ニ面会シ、前日大  
 臣ハ口蓋条約ノ件ニ關係ニ於テ最良ノ希望ヲ  
 得ルガ、口蓋条約ノ件ニ及ビ長ニ關係ノ口蓋条約  
 満足ヲ表シ公然発表ノ止ニ国民モ中ニ之ヲ歡迎  
 スルナラント志シタリ、此レに於テ改訂協約ノ案ハ既  
 附屬条約十号ノ通融定ヲ告ガルニ至ル(往電一五五号)  
 (三)改訂協約ノ調印 改訂口蓋協約ハ既  
 二日七月十三日ヲ以テ英外務大臣に於テ加藤大使  
 ト某外務大臣ト一旨ニ調印ヲ了シタルカ(往電一五七号)  
 若日英外務大臣ハ在露、佛、米、大使ニ対シテ  
 本邦政府ト異同様ノ概略通告方ヲ訓令シ、特ニ本  
 邦ニハ協約第四号ヲ示シ日英両政府が英米

2-0009

0283

即日本に未だト歴史的交渉ヲ維持セトスルノ  
 所在ナリ  
 (四) 改訂協約が條々第々合議 *uninterrupted*  
 交渉ヲ得タルハ日盟ニ新生面ヲ開キ創之  
 ヲ鞏固ナラシムルニ  
 (五) 且之直日英日盟ニ統一尙一歩成ルニ新  
 協約ハ之ト異リ自由尙 政府ノ締結係ニハ  
 即一益、日盟ノ根柢ヲ確立スルモノナリ  
 ト一諸島ヨリ改訂協約ニ促歌スルモノ多ク  
 又、從事日英日盟ニ快ラサリト一快ト異、  
 (六) 英子氏ノ日英日盟ニ対スル 報復ハ夙ニ諒却  
 セル故、  
 英事仲裁条約ノ一大障礙ナリ

P.V.M. 6 820

号ノ通 挨拶アリタリ (七一八機後号)  
 第四章 改訂協約ノ發表ト  
 英子氏トナリ 評 審  
 改訂協約ハ條々ノ期日ヲ以テ發表セラレ、英子  
 氏ハ諸島ノ國政敷シモ之ヲ歡迎セルガ、就中  
 (往電)  
 五六、五七、五八、五九、及七三機後四号)  
 (一) 期限ノ延長ハ東洋ノ平和ノ保障ヲ益シ  
 中華國ナラシムルモノトナリ喜ブ  
 (二) 未だト除外ニタルハ日英日盟ニ対スル強固ノ水  
 難ヲ除キタルモノナリ、  
 (三) 英事仲裁条約ノ障礙ヲ除去セルハ之ノ独リ  
 日本ガ英事 親善ヲ助ケニモナルノナラズ、之レ

P.V.M. 6 819

2-0009

0284

ト駁セルモノアリ程ニテ (ガウエストミンスター) 甚後謀念ニ於テ  
 元格別ノ他日モ世ク (モニニハ後ハ七号) (ニヲ要スルニ  
 其幸ニ於テハ階級差ハ別世ノ政行協約  
 楚曰ノ為ヲ表シ、新協約ノ結果日英ノ表交ハ  
 其取録スニキヲ確信スルニ至ルモノ、如シ

尚、新協約ハ其他加太チ及海峽ニ於テモ  
 一般ニ好評ヲ博シ、未チハ勿論俾由路モ三ヲ  
 款中ニ之ニ及ニテ多ク口盟ノ廢棄ヲ期  
 待セシ独ニハ聊カ失効ヲ感シタルモノ、如シ  
 又清和ニ對シテモ善者、要點知者トスルニキ  
 モノ世々、且又日本ノ輿論モ初ハ、実況全  
 然不明ナリシタメ、一吋ハ種ノ後論ヲ生シタ

ナラバ、五シカ廢止ノ声ハ極テ大ナリトシテモ、新協  
 約ニテ、物其人氣ヲ恢復スルシ、  
 ト述ハ (コテリリニウ区) 偶、一般仲裁條約ノ全業リ  
 反對、一決ニ於テ

(イ) 日英子一方リ攻撃手セントスルヲ三子ニテ他  
 一方ニ年加ヲ防カント欲サハ、故若ト一般仲裁條  
 約ヲ締結セバ、即チ是ハ故若四業ノ規定ハ大  
 ニ日英ノ効力ヲ減スルモノナリ  
 ト論 (モニシグ、ポスト) ニ對シテモ、  
 (ハ) 若事若大互ノ信義ハ市之シ諸般盟約ノ  
 根ヲ蒂ナリ、若事若互シ裏ヲ擡クカキキ状  
 勢トナシ、日英早條約ハ、実効ヲ失ヘンナリ、日  
 英一關係ハ、斯クニキモノニ似ズ

2-0009

0285



420307

Foreign Office,

July 17th., 1911.

Handwritten Japanese characters: 外務省 (Gaimusho) and 七月十七日 (July 17th).

Dear Monsieur Kato,

*Much*

I have received with pleasure the note of the 14th instant in which you convey to His Majesty's Government the congratulations of His Imperial Japanese Majesty's Government upon the renewal of the Alliance, and their appreciation of the friendly spirit shown on this side throughout the negotiations.

I beg Your Excellency to be good enough to inform your Government that His Majesty's Government very cordially reciprocate their congratulations and friendly sentiments, and are glad of the opportunity of expressing their gratification at the renewal of the Alliance and of placing on record their appreciation of the courteous and helpful part that Your Excellency has taken and of the friendly spirit that the Japanese Government has shown throughout these negotiations.

His Majesty's Government cannot but hope and trust with the Imperial Japanese Government, that the result will further tend to secure peace and stability in the Far East, and thus ensure the object which the two countries have in view.

Yours sincerely,

(signed) E. Gwey.

P.V.M. 6 824

2-0009

0287



第  
七  
号

I request you in the name of the Imperial Government to convey to the British Government expression of our cordial congratulations upon the renewal of the Alliance, sincerely believing, as we do, that the new pact is in enlarged sense a pact of peace and general repose, and also the assurance of our warm appreciation of friendly and conciliatory spirit manifested by the British Government throughout the negotiation.

P.V.M. G. 825.

2-0009

0288

420306

Preamble.

THE Government of Great Britain and the Government of Japan, having in view the important changes which have taken place in the situation since the conclusion of the Anglo-Japanese Agreement of the 12th August, 1905, and believing that a revision of that Agreement responding to such changes would contribute to general stability and repose, have agreed upon the following stipulations to replace the Agreement above mentioned, such stipulations having the same object as the said Agreement, namely;

- (a.) The consolidation and maintenance of the general peace in the regions of Eastern Asia and of India;
- (b.) The preservation of the common interests of all Powers in China by insuring the independence and integrity of the Chinese Empire and the principle of equal opportunities for the commerce and industry of all nations in China;
- (c.) The maintenance of the territorial rights of the High Contracting Parties in the regions of Eastern Asia and of India, and the defence of their special interests in the said regions:—

ARTICLE I.

It is agreed that whenever, in the opinion of either Great Britain or Japan, any of the rights and interests referred to in the preamble of this Agreement are in jeopardy, the two Governments will communicate with one another fully and frankly, and will consider in common the measures which should be taken to safeguard those menaced rights or interests.

ARTICLE II.

If by reason of unprovoked attack or aggressive action, wherever arising, on the part of any Power or Powers, either High Contracting Party should be involved in war in defence of its territorial rights or special interests mentioned in the preamble of this Agreement, the other High Contracting Party will at once come to the assistance of its ally, and will conduct the war in common, and make peace in mutual agreement with it.

[67]

P.V.M. 6 827

附  
屬  
第  
十  
号

在  
英  
國  
駐  
日  
大  
使  
館

ARTICLE III.

The High Contracting Parties agree that neither of them will, without consulting the other, enter into separate arrangements with another Power to the prejudice of the objects described in the preamble of this Agreement.

ARTICLE IV.

Should either High Contracting Party conclude a treaty of general arbitration with a third Power, it is agreed that nothing in this Agreement shall entail upon such Contracting Party an obligation to go to war with the Power with whom such treaty of arbitration is in force.

ARTICLE V.

The conditions under which armed assistance shall be afforded by either Power to the other in the circumstances mentioned in the present Agreement, and the means by which such assistance is to be made available, will be arranged by the Naval and Military authorities of the High Contracting Parties, who will from time to time consult one another fully and freely upon all questions of mutual interest.

ARTICLE VI.

The present Agreement shall come into effect immediately after the date of its signature, and remain in force for ten years from that date.

In case neither of the High Contracting Parties should have notified twelve months before the expiration of the said ten years the intention of terminating it, it shall remain binding until the expiration of one year from the day on which either of the High Contracting Parties shall have denounced it. But if, when the date fixed for its expiration arrives, either ally is actually engaged in war, the alliance shall, *ipso facto*, continue until peace is concluded.

In faith whereof the Undersigned, duly authorised by their respective Governments, have signed this Agreement, and have affixed thereto their Seals.

Done in duplicate at London, the 13th day of July, 1911.

E. GREY,

*His Britannic Majesty's Principal Secretary of State for Foreign Affairs.*

TAKAAKI KATO,

*Ambassador Extraordinary and Plenipotentiary of His Majesty the Emperor of Japan at the Court of St. James.*

P.V.M. 6 826

2-0009

0289

420305

附  
録  
九  
号

It is agreed that nothing in this Treaty shall entail upon  
either Great Britain or Japan an obligation to go to war with  
the United States.

P.V.M. 6 828

2-0009

0290

420304

附  
第  
二  
号

MEMORANDUM

-----))))))))))))))))))))-----

In excluding from the operation of the Alliance Agree-  
ment any third Power with which either of the Allies has in  
force a treaty of general arbitration, the Imperial Govern-  
ment has considered that it would be necessary to insert in  
the clause bearing on the subject a proviso to the effect  
that such exclusion should be inoperative in case such third  
Power joined or was joined by one or more other Powers in  
hostilities against the other Ally, but the Imperial Govern-  
ment have no wish to introduce into the agreement any un-  
necessary stipulations. Accordingly they are quite prepared  
for the entire suppression of the proviso in question, if His  
Britannic Majesty's Government are well satisfied that the  
eventualities, which it was intended to guard against, are  
already foreseen and fully met without such proviso, it be-  
ing the understanding of the two Allies that (1) in case of a  
third Power not having in force a treaty of general arbitra-  
tion with one of the Allies should contemplate joining with  
a Power having in force such treaty in war against the other  
Ally, it would be incumbent on the Ally having such treaty  
to exhaust its best effort, to the extent of using its armed  
forces, to prevent such contemplated coalition, and (2) in  
case of a third Power having in force a treaty of general arbit-  
ration with one of the Allies should join with another Power  
against the other Ally in war in which the Ally having such  
treaty is under obligation to take part, the action of such

P.V.M. 6

829

third Power could only be construed as an attack against  
both Allies, and such third Power would naturally have to  
take necessary consequences of such action.

P.V.M. 6

828-1

2-0009

029:

附原  
第七号

As Great Britain is engaged in negotiating a Treaty of  
General Arbitration with the United States, it is agreed that  
nothing in this Agreement shall entail upon Great Britain an  
obligation to go to war with the United States.

P.V.M. 6

829-1

2-0009

0292

Preamble.

THE Government of Japan and the Government of Great Britain, having in view the important changes which have taken place in the situation since the conclusion of the Anglo-Japanese Agreement of the 12th August 1905, and believing that a revision of that Agreement responding to such changes would contribute to general stability and repose, have agreed upon the following stipulations to replace the Agreement above mentioned, such stipulations having the same object as the said Agreement, namely:-

- (a) The consolidation and maintenance of the general peace in the regions of Eastern Asia and of India;
- (b) The preservation of the common interests of all Powers in China by insuring the independence and integrity of the Chinese Empire and the principle of equal opportunities for the commerce and industry of all nations in China;
- (c) The maintenance of the territorial rights of the High Contracting Parties in the regions of Eastern Asia and of India, and the defence of their special interests in the said regions:-

Article I

It is agreed that whenever, in the opinion of either Japan or Great Britain, any of the rights and interests referred to in the preamble of this Agreement are in jeopardy, the two Governments will communicate with one another fully and frankly, and will consider in common the measures which should be taken to safeguard those menaced rights or interests.

Article II

If by reason of unprovoked attack or aggressive action, wherever arising, on the part of any Power or Powers, either contracting party should be involved in war in defence of its territorial rights or special interests mentioned in the preamble of this Agreement, the other contracting Party will at once come to the assistance of its ally, and will conduct the war in common, and make peace in mutual agreement with it.

Article 3

Great Britain having a special interest in all that concerns the security of the Indian frontiers, Japan recognises her right to take such measures in the proximity of those frontiers as she may find necessary for safeguarding her Indian possessions, and reciprocally, Japan having a special interest in all that concerns the security of her frontiers, Great Britain recognises her right to take such measures in the proximity of those frontiers as she may find necessary for safeguarding her possessions.

Article 4.

The high contracting parties agree that neither of them will, without consulting the other, enter into separate arrangements with another

P.V.M. 6 831

Article 4. (contd.) 420303

Power to the prejudice of the objects described in the preamble of this Agreement.

Article 5.

Should either high contracting party conclude a treaty of unlimited arbitration with a third Power, it is agreed that nothing in this Agreement shall entail upon such contracting party an obligation to go to war with the Power with whom such treaty of arbitration is in force unless such third Power joins or is joined by one or more other Powers in war against the other contracting party.

Article 6.

The conditions under which armed assistance shall be afforded by either Power to the other in the circumstances mentioned in the present Agreement and the means by which such assistance is to be made available will be arranged by the naval and military authorities of the contracting parties, who will from time to time consult one another fully and freely upon all questions of mutual interest.

Article 7.

The present Agreement shall come into effect immediately after the date of its signature, and remain in force for ten years from that date. In case neither of the high contracting parties should have notified twelve months before the expiration of the said ten years the intention of terminating it, it shall remain binding until the expiration of one year from the day on which either of the high contracting parties shall have denounced it. But if when the date fixed for its expiration arrives either ally is actually engaged in war, the alliance shall, ipso facto, continue until peace is concluded.

In faith whereof the undersigned, duly authorised by their respective Governments, have signed this agreement, and have affixed thereto their seals.

Done in duplicate at London, the                      day of

P.V.M. 6 830

2-0009

0293

420302

附  
録  
五  
号

The Government of Japan and the Government of Great Britain  
having in view the important changes which have taken place in  
the situation since the conclusion of the Anglo-Japanese Agreement  
of August 12th 1905 and believing that a revision of that Agreement  
responding to such changes would contribute to general stability  
and repose have agreed upon the following stipulations to replace  
the agreement above mentioned such stipulations having the same  
object as the said agreement namely etc, etc.

P.V.M. 6 832

2-0009

0294

附  
録  
第  
四  
号

Should either ~~high~~ contracting Party conclude a treaty of unlimited arbitration with a third Power it is agreed that nothing in this agreement (the Alliance) shall entail upon such contracting party an obligation to go to war with the Power with whom such Treaty of Arbitration is in force unless such third Power join, or is joined by one or more other Powers in war against the other Contracting Party.

P.V.M. 6 833

2-0009

0295



420301

付  
第  
三  
号

It is agreed that nothing in this Agreement (the Alliance) shall entail upon either High Contracting Party an obligation to go to war with any third Power with which it has in force a Treaty<sup>of</sup> unlimited Arbitration unless such third Power joins, or is joined by one or more other Powers in war against the other Contracting Party

P.V.M. 6 834

2-0009

0296

附  
第  
二  
号

Should either of the High Contracting Parties conclude a Treaty of unlimited Arbitration with another Power, it is agreed that nothing in this Agreement (the Alliance) shall entail upon either of them an obligation to go to war with the Power with whom such Treaty of Arbitration has been concluded.

P.V.M. 6

834-1

2-0009

0297

Tokio

London 6-4-1911

3.30 p.m.

附  
原  
号

~~Intro~~

~~66~~ The Governments of Japan and Great Britain having in view the important changes which have recently taken place in regions affected by the Anglo-Japanese Agreement of August 12th, 1905, and believing that a revision of that agreement responding to such changes would contribute to general stability and repose and desiring moreover to give fresh proof of their pacific aims, have agreed upon the following stipulations, to replace the Agreement above mentioned such stipulations having the same object as the said agreement, namely: (then follows recital of object in the same wording as appearing in the preamble of existing Agreement from (A) to the end of (C) )

Articles I and II same as Articles I and II of the existing Agreement

Article III Great Britain having special interests in all that concerns the security of the Indian frontiers Japan recognizes her right to take such measures in the proximity of those frontiers as she may find necessary for safeguarding her Indian possessions and reciprocally Japan having special interests in all that concerns the security of her frontiers Great Britain recognizes her right to take such measures in the proximity of those frontiers as she may find necessary for safeguarding her possessions.

Article IV The High Contracting Parties agree that neither of them will without consulting the other enter into separate

P.V.M. 6 836

420300

agreements with another Power to the prejudice of this Agreement.

Article V It is understood that this Agreement is not to apply in case either of the High Contracting Parties becomes involved in hostilities with any third Power with which the other Contracting Party has in operation a treaty of general arbitration unless such third Power is joined in such hostilities by one or more other Powers or joins in hostilities against either of the Allies.

Article VI Same as Article VII of the existing Agreement.

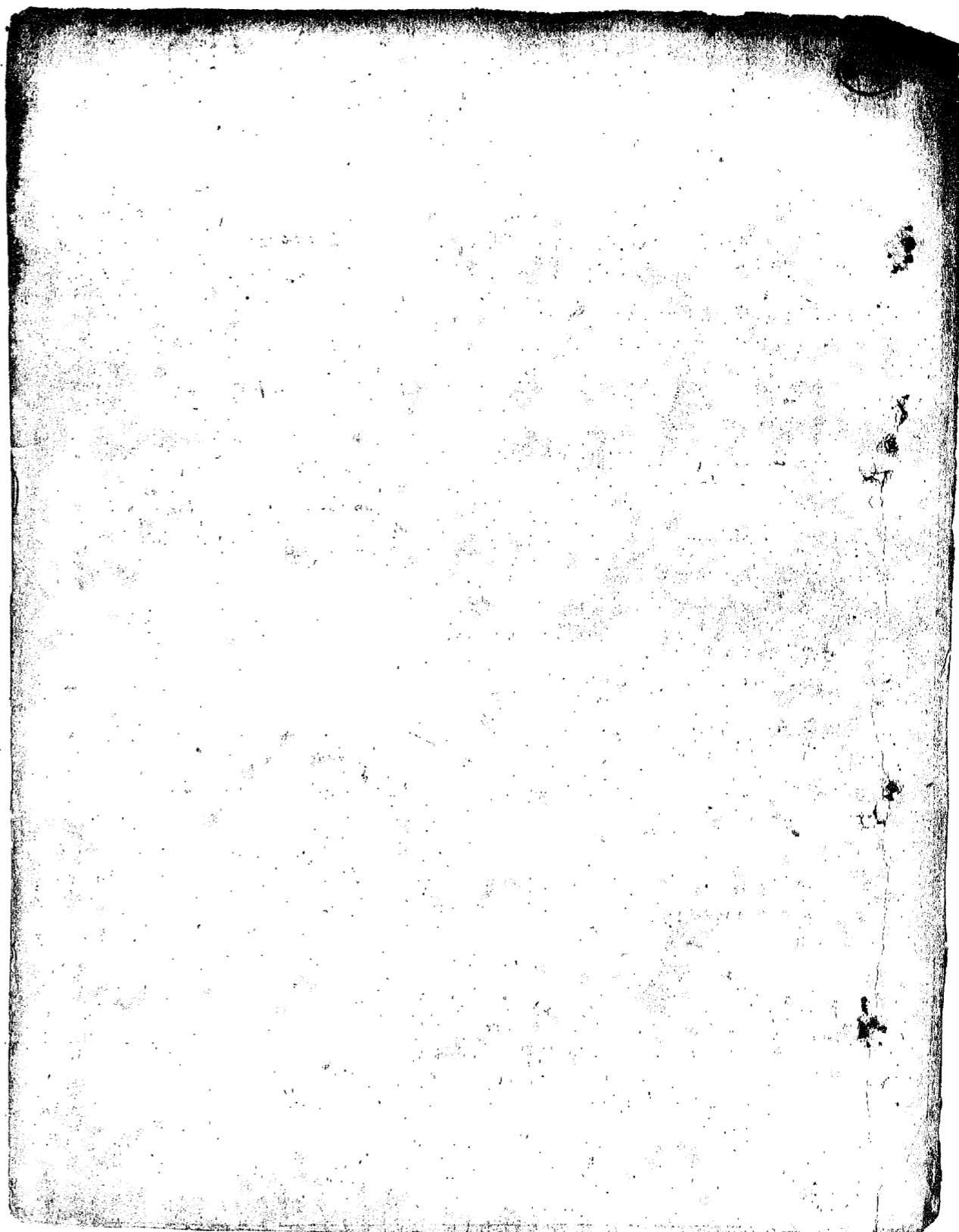
Article VII The present Agreement supercedes the Agreement of August 12th 1905 above mentioned. It shall come into operation immediately after the date of its signature and remain in force for ten years from that date (then follows the second paragraph same as that of Article VIII of the existing Agreement which read "In case neither &c" )

-2-

P.V.M. 6 835

2-0009

0298



2-0009

0299